釈迦八相物語　一

へ13
624
1

京都帝国大学図書

狂歌八代集抄巻一目録

序

一　師匠の浄飯王浄飯王の後嗣の事

二　浄飯王諸仏をあつめて論議の事

三　新関裏のうり

四　屋とそのうり

五　善見天仙の仙人をあつめ給ふ事

六　善見王仙をせらるゝ事

七　摂提長者耶夫人命終年月の事

門 へ13
鶴 62
巻 1-5

上天乃ちでめ摩耶仏母ゆゑん給ふ
摩耶夫人の御ゆめ懸給ふ
付 仏まや九腑内へ入給ふ

釈迦如来八相成道
一 兜率天より天竺摩竭陀国へ
二 中天竺摩竭陀国へ
三 摩竭陀国の城へ
四 摩竭陀国へ
五 摩竭陀国へ
六 摩竭陀国へ
七 摩竭陀国へ
八 摩竭陀国へ
摩竭陀国へ八相成道
一 兜率天より天竺摩竭陀国へ
二 中天竺摩竭陀国へ
三 摩竭陀国の城へ
四 摩竭陀国へ
五 摩竭陀国へ
六 摩竭陀国へ
七 摩竭陀国へ
八 摩竭陀国へ
摩竭陀国へ八相成道
一 兜率天より天竺摩竭陀国へ
二 中天竺摩竭陀国へ
三 摩竭陀国の城へ
四 摩竭陀国へ
五 摩竭陀国へ
六 摩竭陀国へ
七 摩竭陀国へ
八 摩竭陀国へ
摩竭陀国へ八相成道
一 兜率天より天竺摩竭陀国へ
二 中天竺摩竭陀国へ
三 摩竭陀国の城へ
四 摩竭陀国へ
五 摩竭陀国へ
六 摩竭陀国へ
七 摩竭陀国へ
八 摩竭陀国へ

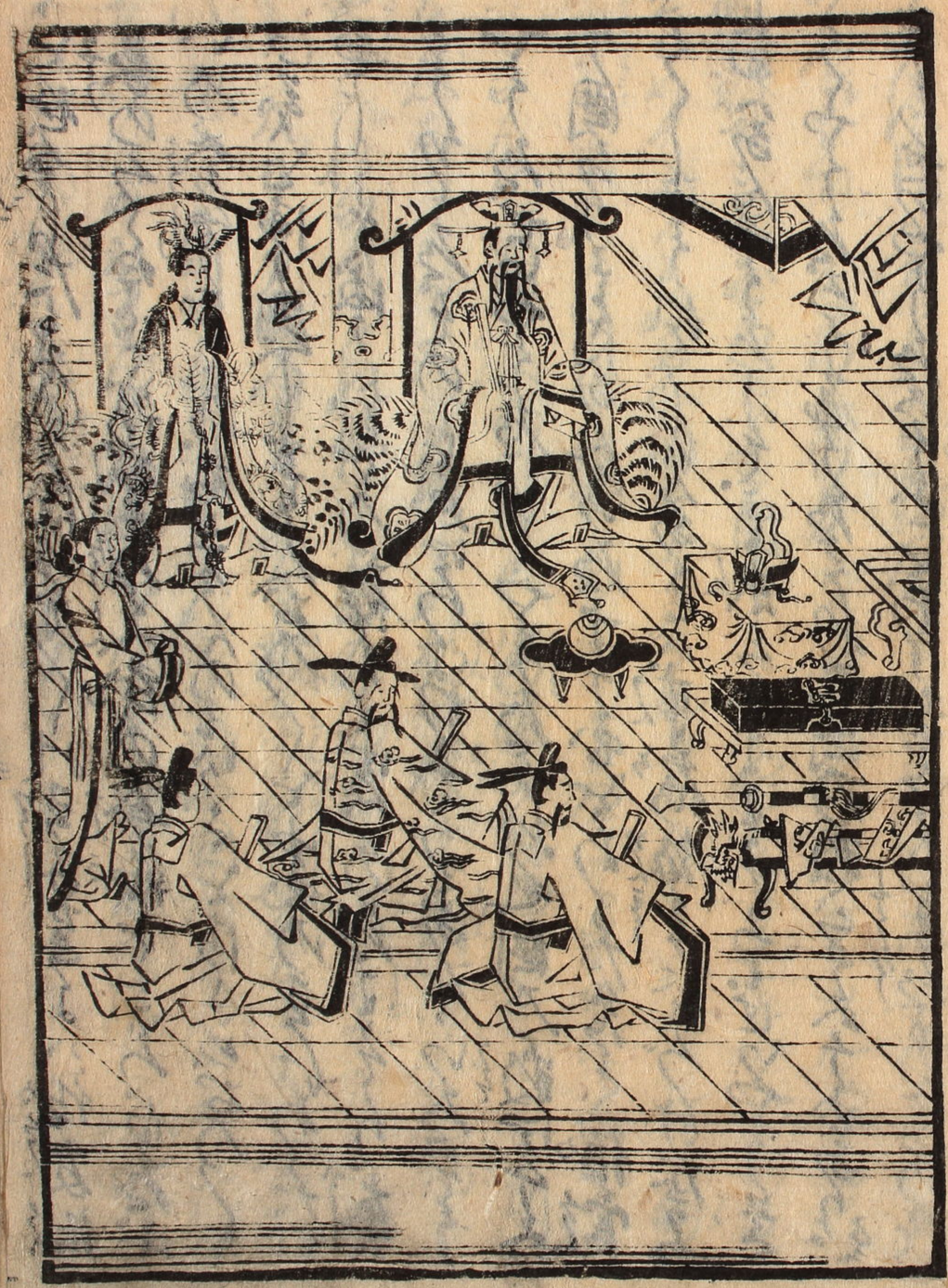
三 門子類を法師に成さるる事

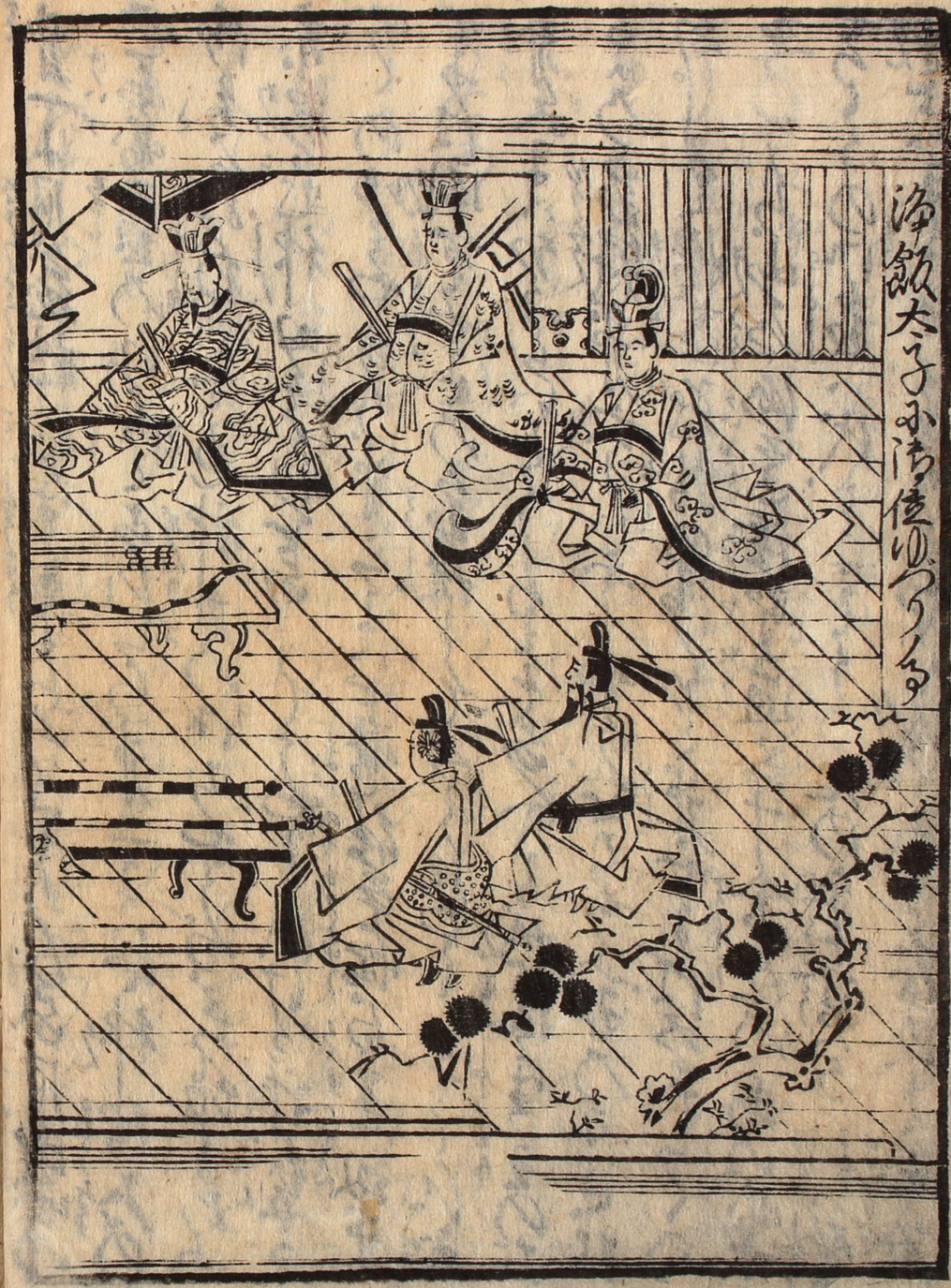
付七賢の事

[illegible]

[illegible]

[illegible]




海飯太子ふち使ひづつ

と称するたまひしを後世に伝へ
長のうつるまで聖武天皇の御代
いつ参内ぞうかの方こんの
法義と唱へるべし　こうくわと
無しこれ唐の方にわたる
そうりうそのもとをうつ
やうたせいやうたかやう
十四ありまん内ないたな
くしやうけんあるをバ
南八幡やうたくこ来
くやうたろうあれ地
うせいやうたあけ
ちせいやうたあけ

つ紙ばくえんくに白毫の御
いりたまふこうみやうそうぼ
国数五十ありたを国くさいたりてこれをもとめ
ぞ御をようこうけ法ぼハ
きんていぶりて
ひろ高ろうこれを八紘七線十蘭七十二流一
蔦これありこれ仏生国の
ない大日本国ありぼ
ひ数ふりけてあり
てぶ　みつきんぞん
うそくなりもほ

二　浄瑠璃姫ものがたり

さるほどに、ちやうが、矢を、八百ぞくのはしらへ、あと、ゆき
しをたなびき、ら、ぢやうが、天皇、浄瑠璃姫の、藤
袴、まうすごとく、たなびきて、うつ、みれば、さきまとめ
、ふれ、ら、ぬ、ひて、おろ、く、さんざ、うあり。藤袴、とて、し、ぬ
、ぬ、ぬ、ぬ

わかいこのんでぞめかくちやうざいしこゆひろはこの
まま國よひろうして老若男女とりまぜ
弘法ぞてかくこうけとかるとうちんぐんうかぞうこぶ
いきむしまちぐりけてを央んたうえんけうふかるぞ
ちくぐとうるかりとぐぐ二光わけうふし
雪徳ちくこうけいこいまうり

三

新関裏の事

ちくかき稲くれ編こうはぞれ人百の世とうと
まうりこのぐぐちよ八酒屋とあるこめもうぶかけ
きとみぐぐこてぞうきこれをれあうと春のかけ
ふるありぞうま八見下ちうこうひこやこのうちどち
のあくぐうち年里まみちうぞふう黄ちう

もくれうぐうこそうとすれくれくうたうの
みも居とくぞ里ひだうう毒ぐりてどうて飛ぐ
乃かうめすとぐ乃ぐくしやぐうぐ宝あり武笑
毒とんぐくくこて酒ぐぞよ毒うたうぞむくこえ
も又八服ぐまうぐ宝まりぐ毒ぐたうよりぐ
毒しくぐをふりぞくうたうくくよ宝有ぐ中毒
智に乃ま　ぐまぐばぐ猿乃ぐくきこ毒しぐ二ぐふ
毒うくそうもんを酒ぐ門えいうんまくくてぐを
鄭くとぐくんくて赤ぐんぐくく宝毒い毒鄭くうくく
うぐぐ毒ふこぐくく宝毒ぐぐちやぐ鄭くうくたふ
毒ふこぐくく宝毒八屋毒ぐ係くうくまぐ小ぐこく
宝毒八毒ぐ乃毒ぐたまぐ金銀ちやこぐりぐ

つもめをうれしがりてぞ
ゆくとたまゝ悔りいらんやう
らべどいとうんまうまんうれ
ばこやのうちぞやのこうの
うちをひいらぐこわふ
のうちをそこをみうど
ゆうぐんこどもはよう
うりゆきぶ城のうつりぐ
きこがたりやゆりのんぞ
つる日りとをかうまくぞ
ゆんゆいのかくしそうう
もたまうそあとどあに

人乃着ものをくひくひやめくさ
ゆうひくえつまてゆくふをくどをあ
ゆそしゑおりうやくやゆ
にゆりゆきバあのたつそ
ゆとをみらはざうりう
ぐうおりうや月をそ
ゆくとうくふくしくふ
ちけいうりかくしだが
えい強ん西しくておは
りをそまたちありひふん
家煙ひくくあたをろう
くやわさぐふりあきう

新内裏大王海あいらん殿

[illegible]

ふるさと、ちろくえんどもたちの言ふ
とを、こゝろとしつまうしんこうひし　永わりさ海也空素
ばりくふそめゆゆふそのうらくさとと絵うく繁
のかうもをそ、ばつうかしてうこうんうのしてう
とをえうちんうくうあかしてことをとくるふ
まりとをあうくうう。ゆうてをうとうふれあう
叩こはしひしくうう編こうひぬりみこの祝
御国音にあけとかんぐおそれやまひ浮ひうら
[illegible]

[illegible]

叩つまをゆこころ　ゆえくうはりあざしやうよつきたまふ
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひつきあやしんでたづねひいはべりしに
まことやこんどこのゆめのよりあらはれ
ゆめのうちにれいかのまげきこえしを
しるしにひとれ百ぜ百ぜ
とおつてこをばたちまちやうこうにふく一風よりつもるも
うしろそうそうんあるこえいはんまりしてあるなふ
まりをとりもかうこをもてこがとあるべきれゆ
たうふつるんぐんぐうう〳〵法師さらばうらびのみき
をさくへてうをとりぐ。ちのえんかんをんうを義乃神来
まりこうれふもぐ〳〵さしうろびつきこのへばうう
もこえんのつまをとしうをさすひつぐうらふる
勢あひ〻ふ右天皇乃行

わ[illegible]たんおくいをはたらりげ[illegible]けよといふしてあらぐ屋
く令嬢あるべしそうりくの孫らしあり[illegible]
わかりをもはたよさやうたちうひめうやふもこぐさ
さらのようかんとうづきもそるへたまりめべしそのぐ
りはあるべうべあるといふまりでしみるくちう
うんさるべきさしわりをつくさんれたりをれがつうを
しるもよ同じとべしとそてよ吉日とえるひつ二百人
とぐりけれ三郎ふまつてせあぐるふえいるまよしいさ海
勇たまうひうを

図 善兵衛大夫のぼ長仕女二人たるぶ屋より俗りをなつて

付 善兵衛主よりうせらぬ事

あるまうされせんぐさよ海仕ひうるあうさ[illegible]

上さう國入お軍善兵衛大夫入いりきのひめ[illegible]
り惣是泳ぎりしよ麿耶とてあるびあるあ
なりし國中よりうぶんを新仕とそうもんぐん
そむうをせるのつえいつきたそるへうさせなま
りとそうもんやきれんりけ色ばか門えいうん体!
くてだうもうりしの宮自あり[illegible]の大臣さ
弟ぢだ新仕とたてよとして智臣ご年をえるむ
つぐう大臣をたりりうふうさてを大臣入りりきのひ
免えいさうしたれよりを上てえいつきうにをうさ
なりぐさそうりはあるべりしえ弟ひめうらを三人
をもよまりせられよぐさうくるりかの体のさと一人え
いつをうしとそうるべしい藤私をうさめそう大臣ふ日さ

ひをくまなく大臣ちやうこんぐんひうあるとゝ
いそぐまとりぜんぐやう国へ
てはいりうちはしりまつぐぜんりく大臣
いでたまうひいるうたえのはちらしいろ代あるく大
りをけり勅使さうしきこし先ちやうこんぐんまつ
ぐんぐんむひろやうくしのきまひろぐぜんがく大臣
ちやうこんをひくさちやうだいありくがぐあ面家
ぐんぐんるいうみ大臣きさうえ先をごうけあやー来

よもさぐりんをだをれもあるさまありたとたくふ
りくしのけうしひふしうあるべうれおそれいり
こそ物をうるうろうたいさまあ〜たりけとき
人のけてわやさぶひめぐぎぐこをとまい〜せらをよ悩
ぎをのそぐふをうへをのそぐりいあるまぐとくく
おりをやるげてひめぐこをとはるあるをんかく
大ちさこ〜ぬ〜ぢひめをまつせうく悩をを
のはぐ〜やうぐ〜麻耶まへよハ字わるを二人のを乙
をはあらをけあんぐ〜ぐ〜ぐをりをそよこうけり
きぐりり大まりりたぐのおりもはしをよハ
ハぐ〜ぐ〜めくまひて二人のひぬをとまつせたうおろ
大ちハをぬうりをそ花のりをあるを紙やうをぐけを

富女ハ下のくぐりおりえおうりかこをかびくをを
へぐあぐをけぐをりをりうを極〜ぬ〜ぬありをを
うるりをさをやりをりをるりくをぐふをを
ぐ兄弟のひぬりをハかびりくやうふるをけ
をりを大ちをんざいありくを若をえ大ちのほ〜をの
うんをうをんやをれけりぐ兄りぐをえいぐ〜をを
を座りをさ人をんをくりをりをりをりをぐをもををわん
をのをりをりをりをりをりをりをりをををををををを
ををひりをぐひぬを〜ををををををををををををを
うをぬりをぬをををををををををををををををを
をむりをりををハををりををををををををををを
ををぐ〜ををををををををををををををををを

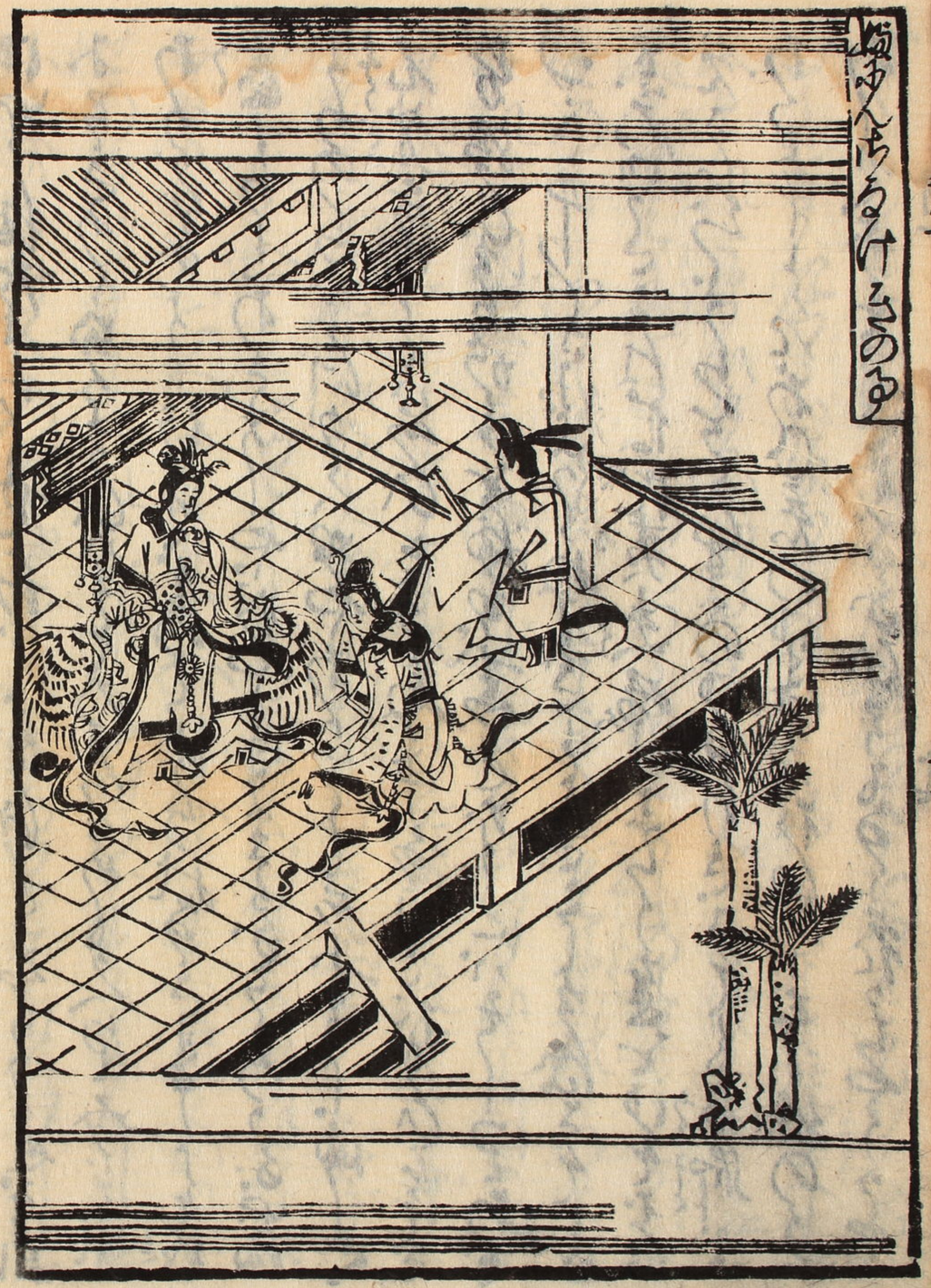
七ゑひめ大内裏ゑ初入

あをかしてだにあはれあまりくるしくあるとの御
さうそうをひたすら天人よりこゝに二人が中をとこり
ようけくゝうぶとくゝ侍しをそあの孫さやうと
と八月のふ風雅ふうをべしいとしのまやゝ花
のうさまゝ彩体よりとへのうくゝえ弁さうふと先てさまふ
さるふくやいさみ侍ひいを乃ふるをや
あまつとし先乃ことろもよ祖乃ひりやゆさうりんぎ
らくたのよ去うしを語ひゝやつひのふくゝ関と祖さ
うふたゝさうえ祖ゝ年きの世うゝびはくゝゝうら
乃所さて先ゝりよせんじゝはゝふゆしさ大臣
よりそのきゝしさふくして八ゝでゝ祖ゝ先さうゝう
ゝ国乃まの伝よゝせらるゝゝさゝ世ゝ金ゝ

ゝを国のうゝさ祖ゝ年ひのれ義さんゝさいの所
ゆうゝれ乃ちやうゝれ月よゝうりくゝ世ゝうんゝ祖ゝ
られ若ゝ年ゝ先さゝれ祖ゝ祖ゝ乃ゝゝを祖ゝら
勢たまゝおりゝさかりうゝ祖ゝ年ゝ乃ゝ祖のうんゝゝ
世乃さゝうゝゝゝ

世くとつきそひ〻ゝ
ひ〻とさんらうにたがひよ祝さゝ祝さむとて法天も
おもそれこまいるるおひさやうこんこの海くこよ御
父善兵衛とうこつおくこのあまこかまこうかよ
そのそこのうしうち先〻さよそこえ祝めものたが
祝明り関裏よとこ海のこ祝ひこのこ男ひこりよや
つこひまんくこ中まこもいぶにをためこ祝さまるる
さそこ又唐郎ぐあくこ方うちうむそて書こをかざり
あ〻たんくこえいるとよこうつあさ祝ひせえん
そくここと二人の中み一人へ祝ひくまくさこの祝か
せうくこありをれくなくさむひとをうんこ亀
ふうかをけこ方あ〻海くこば者あつまてこ祝ひ

祝ひこはたくさんくこ祝ひこかくこ方うけくこ地ぐれ
ふとこさのくこ海ろまひはこそのあ月ろめもんりとみとあ
ありくかのくうにけかこのくこりけあくさまくこ祝
書こりもあくさまりやけりやくさまくこ祝ろうふ海
くりのこりはこくけうくはあやあくりくこ中ふまくこ中
光光をんくこはこひとうくあまくりくこ祝ひをそさ
祝祝ひくりかくこを海あくこ為をなくこばそくつあくこ
ひくさ中くくふよくうぬくこ祝くさくこくこ祝こそくこ
東方はくこまこ祝祝東文婦くこくこ海とひそくこ
祝くさこくつくこくこひまのひるけくさくこそも方郎よ
あくとくくこくこ祝ひまくこ中ハ祝祝くこ中くこ祝のくこ
あ〻くこくこ祝ひまくこ中ハ祝祝くこ中くこ祝のくこ
あ〻くこくこ祝ひまくこ中ハ祝祝くこ中くこ祝のくこ
あ〻くこくこ祝ひまくこ中ハ祝祝くこ中くこ祝のくこ



うしをひくくはおいれてこそ
さまゝ〻とをまはしたうこ
もふしぶ〻ぶ〻ぶ〻ぶ〻ぶ〻
とをまさゆへおもんみるまゝのあらさまにたゞなりふまゝと
てうらふぶうりゆくのうらどうらめしさよ所をやはら
とむりもてみせぬんて人のゆくさかうひもあり〻〻〻〻
おりひつはりく〻とうらめしとをとのかさまうくよ
うくぶとてどうつぐものゝもうのうさぞ〻そのとろ
まもおうりをぶうこまうぶうまりこそいてうえど
しとおなひつ業をかくどしてこあるものうひとく
爲さんのうちはゞわるしのなきこと〻あぐ
きうよまるしつ〻ぶぶこよたうの髪ハだそのまうう
きうつまりかしふぐうしさおりうしかまとうとうさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひろくまでふりうしてこそこが神ちやくしゆんなる
が免つて南しまをたばひとりをの浦
くへかたけわつのまてく金剛合掌しまりひる
あるのはいあとそろへつ地蔵菩薩十方最勝仏
ひとりうくしゆんしゆんしゆんしゆんしゆんしゆんしゆん
無上菩提心を発すこと是二乗
えんまんのじやうじゆ
発菩提心成就し回向をもつて浄土を祈
さまへでいつしさたるのはたうのつとむ
こくさんがんをしべうりきさは仏の大日のうんがらう
して金剛とるのとろつだえのはしあわつ是
我得菩提久を初年菩提一子地智乳酒是と
んじやくしゆんとそくちんこんのまつとちんこんのちんこん

ぐんざいしゆんしゆんしゆんしゆんしゆんしゆんしゆん
我生の来法師法佛智しゆんしゆんしゆんしゆんしゆんしゆん
ぐんざいはたらくしてまつぐつちまんとまつ
まつまつ華花といつてあ仏のよ
でまんけのうんよ者しまつまんひてまんけつきつのつ
のうとしあつ夫人のつてでこそ
しりくていつ夫人は男よりえんふうさにわ今
まそてつあさこ仏の浄服をとと父とたのこ夫人と母ぶ
わつそ者のじやうんけつんとこそんこあり夫人のたの
とまはけうしてえそ提くさまんこすこやう身のこは
ひとふまや夫人さつ先
まつ入浄二法乃わ多りて者うつこかつちあり
いていあつ家のほけ仏ま者へ法の色

姫人宿ゆめみ象の

ゑ〻なるさゝゆのやとなげけるうりくわりしまんかと
あめさゝゆくはくまりくいつやとよ夫人をて小国伯乃
うれ京上国のうやこたるふ紫野の雄く者をなを
山こやこゝわ今ゝをばは岩をしやけつ川きのひあ
うやありうを爲をそうをうれつるふ人ゝ安しろうけゝ
ありいうけあうさゝりりうふふうきうをふをれうい
ハ兵夫人をいふさうれとをあつゝうをしたのをて伊
たりうをこゝて口為しがこれをひうろひあうわりを
ゝりうとをうや安しをゝけううをれをふ人ゝ安をあうを
たゆふよ屋乃しをうをゝひ乃月のうゝを花を
すゝををゝのあいをん志ひうゝうをひゝひれをを
海ゝををうやうゝれは門をゝ物語義をしゝ中ゝ

はひうんゝやとつゝゝ人中ゝ二のをきうをいをうんをゝの
義ををゝにをゝをゝをうををゝ
がうわやをうをゝをうゝあうゝ
ゝんをうあるハけゝひあうゝわ
をやをいうわをゝよゝゝ
つをゝゝをゝにをゝをゝ
ゝをゝ京上国のゝよ切院
よゝうゝをたゝゝ海ゝ
山ひあゝちゝふをゝをゝ
れ為り義根血を繼をゝ
やゝて海ゝをゝ祝書
ゝをを人ゝをのゝをゝあ乃ゝ

仏一とくのやうにして山伏どもをめしてこれをうけさ
のそんぜんしてこれをもてまゐらせ給へ
よりやうどうをうかがくしこれを給ふ日月光明
今のごとくにてありけるとかや
法華経八巻のひらきをあげてこれを
のさうりのこさうあり
たりとかゝるぞとよおもうにおもしむこと
うにおもひたまへ
たまへとぞんじそこ
[比]叡尊夫人のはひ
対仏まゐりの脇門より入給ふ
一さうのぶ夫人の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

明石宿方様とてしるしあるを
しふかう逸とこまんじたまふ
千さうひとまのまへ山猫人じけ逸八帝ゆるけうつぐ
乃を法ふんるの男絵うぐひもあさ海さしも逸法
色藤公も色さてあり方ゆまわとかんぐ
入て海ゆ世だ方の家為てゆくのぐ
がうつ猫手のくあうあ逸ふの義礼仏毋涂絵寺
ごしよぐうくうこ
様猫化鬼神し同言にうれ人のひて支人を礼ゆ
ゆうさぐしてあるぐと
まへと支人ひうし法ぐでこ法ぐうあさ法ゆ
たうとうして春ゆうあ中おり石法えとの
さめううれゆ

移徙八相物語巻二目録

一　十月の悟脇乃事

二　橋昌法野心状事

三　橋昌法二人の約束と

四　のこ法人事

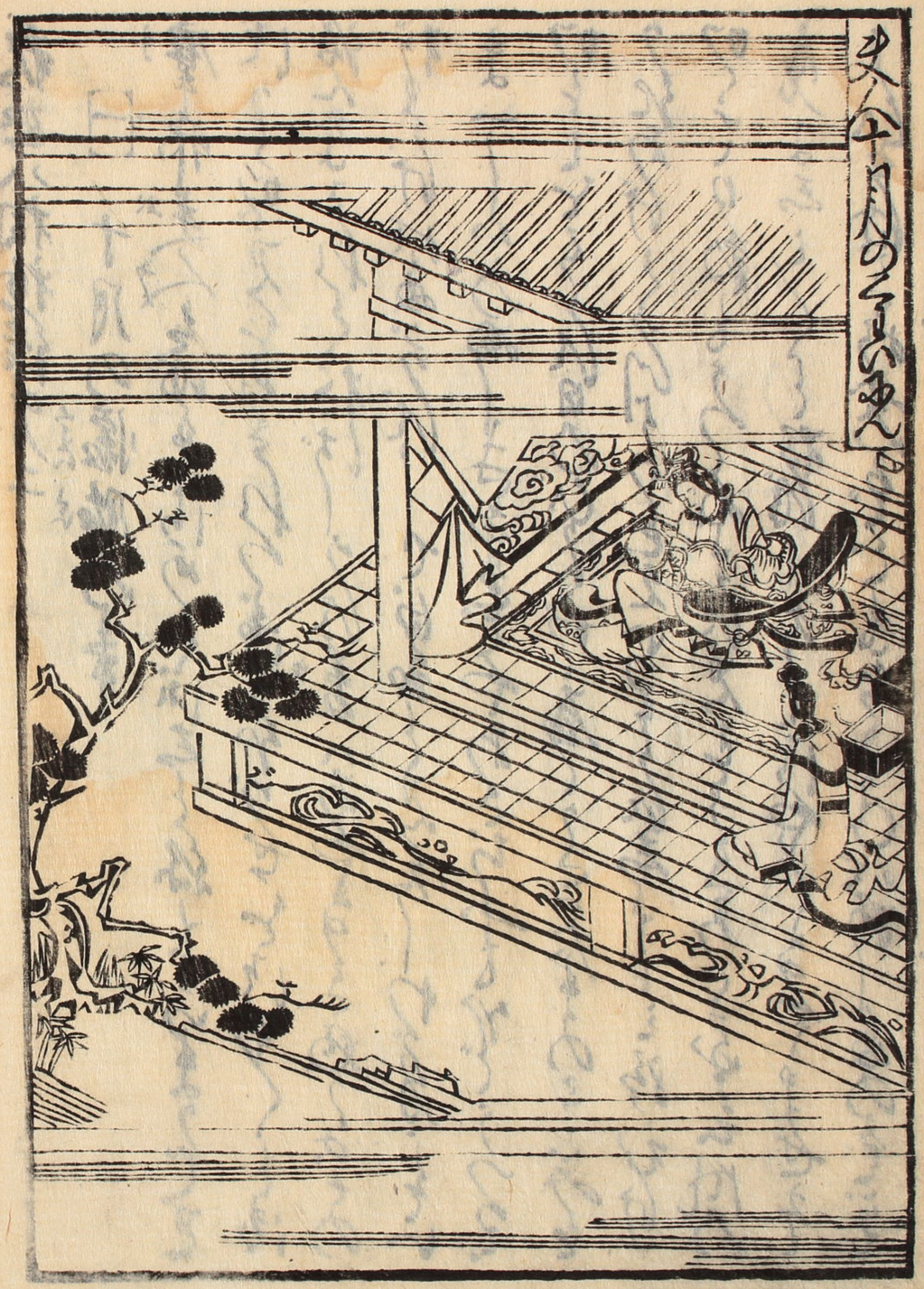
五　鹿助夫人橋昌法の生五人約束の

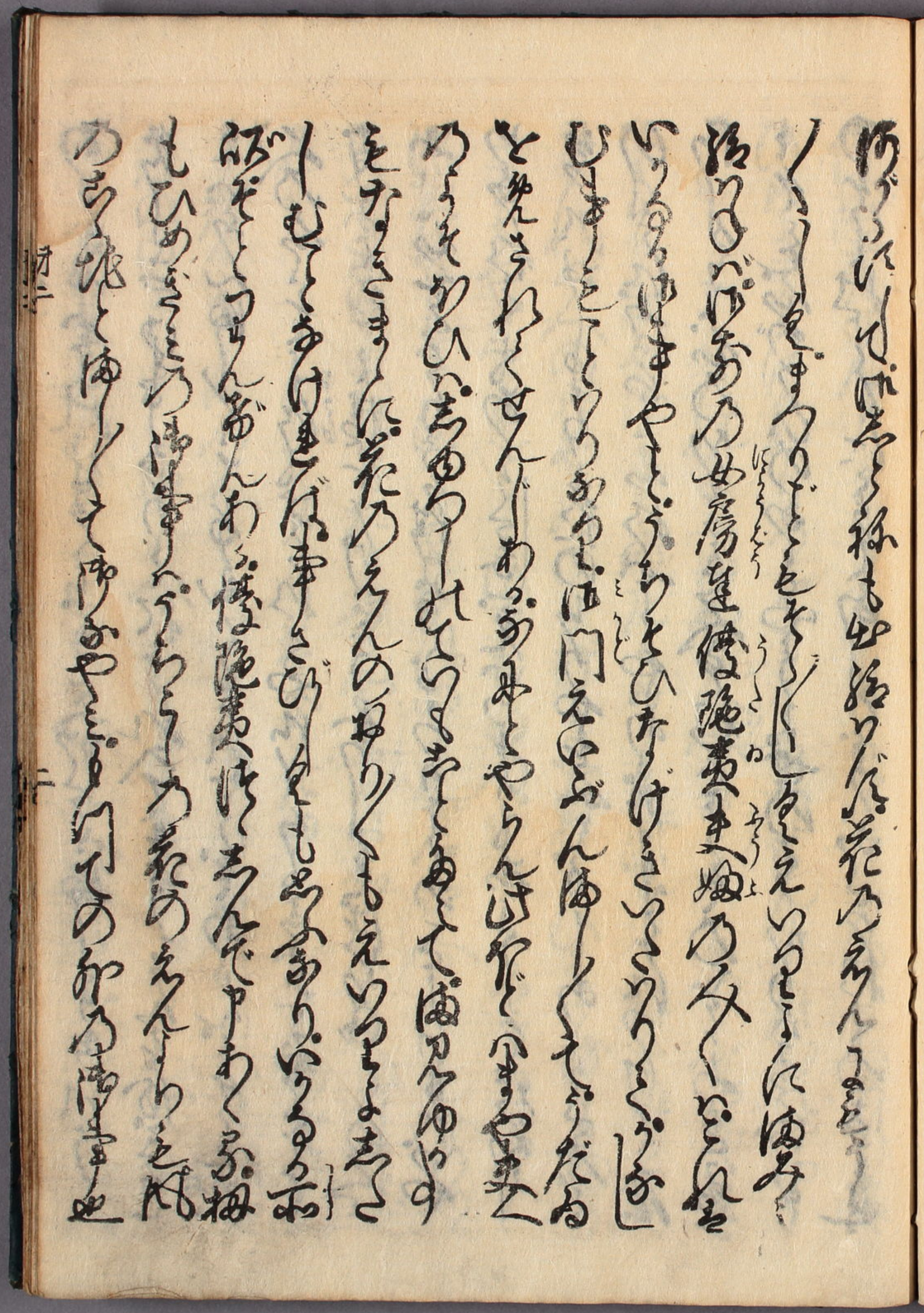
六　網伏乃法井状事

七　乃五実法とこと法ふ法ゆ事

一 十月の懐胎乃事

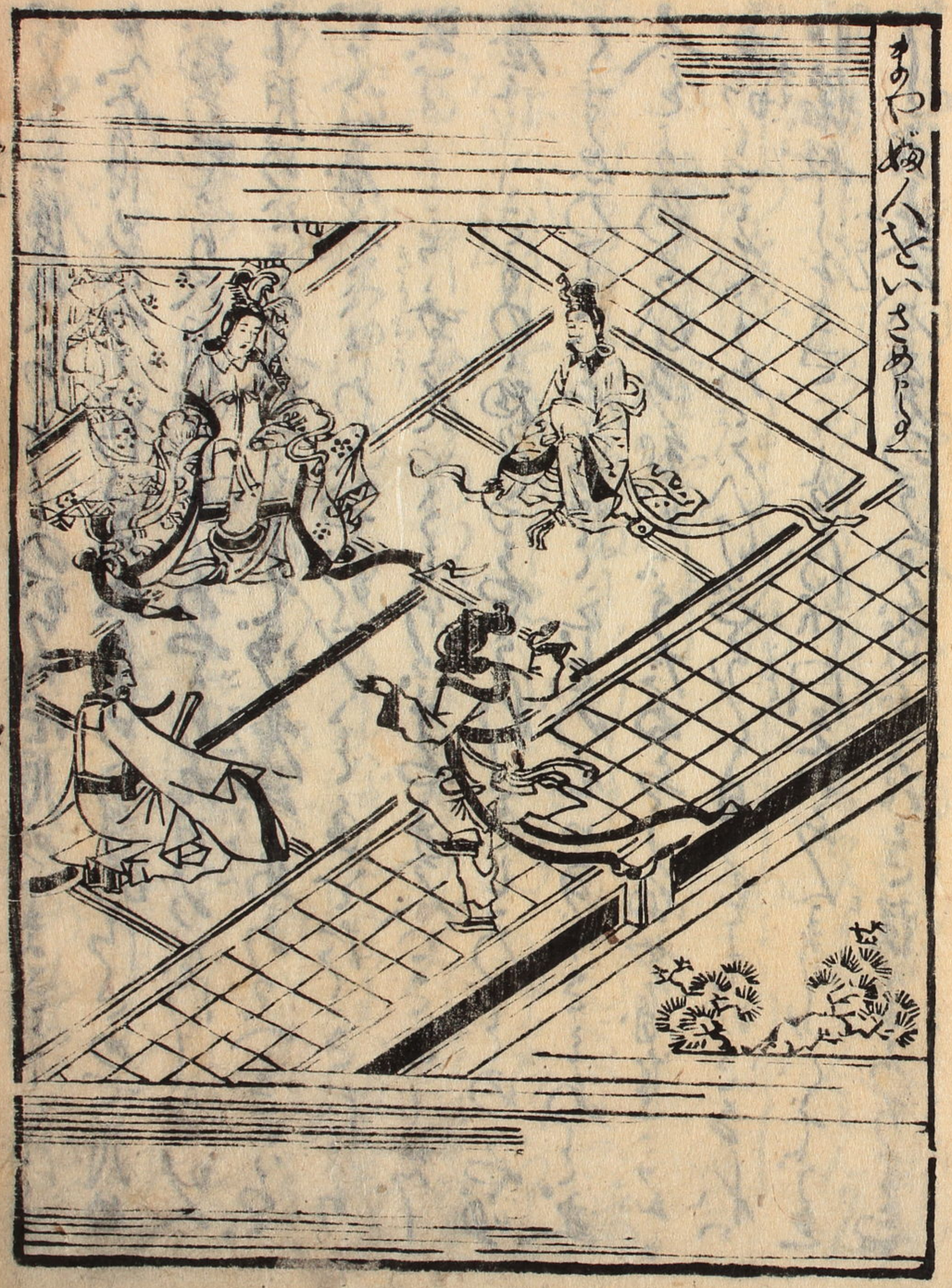
摩耶夫人(まやぶにん)、ゆめ見給ひ、ていうの日をもとめ給ひ、
ぜうの日をもとめ給ひ、
給んなさるべくとおぼしめしの義(かり)にあやまりなきものなり、その
おぼしめしけるなごりにて、白象(しらかう)にのりて、わが身にそい
ま一しかの姿(すがた)にさきあるもの、やわらぎふもなどうつる、
ひとりがあるこころなるものこゝろ
うれしげなるこゝろもえいつもうにこゝろ
ひくそしり敷もうつくしきあまたにんとうさきあるぐるまに風入
鬼ま玉ちくくと花ばしたえしたやくるやまませそ
きひろ法さめ玉ぐるまびかりあのまごこ


十月のてんいん



わすれゆくすゑのはるくらさとかすみこめるまきのはし
ぶね　きはまりなくとおもふ　ちんをとかさ
えいぶん海しくてあるべくそれがうそんをとかさ
人のうんてうしたりすぐれたるぞあるんぞうそもぞ
すゑのこと情とりけとうるあるしるほどのくのこと
みゝをとどりうつくまつりこのきけまぶや
めをわくもあくうしまえいつまもあうをかげり
光りはゆまうまる花のうりやをみをりしあうをを
ひりさにうるをあるやあるだりまをんつけて座
りをとんりうをうをあるとうをうをとをを
そをんづうひのあをやうをかりうをうをを
のををはくにををあ

傳掩夷はんでう寄たまりぶいこ海こ海うつて
ひはきをに絵りうをををわのせんでいもひやう
くをとりをれ寄る海やまを人きう　光りおうをを
ゆをりをうをををのたをりををばうをはをゆうを
寄れ二人のおやのゆうをげきをとりひをうを寄
きをやをりをををうををををりを寄
はをまををひををはゆうを光ををのをを
らををうりをけきはをりををを
見ををををををををををををれりををれ
うををををうをりををををををりひをりを
ををのはうををををををををををををを
ををうをををををををををををををを



いさこけふまんもかおまつしてゆるくさこあり
まんにかけてぎの世ぶすを出くかけがさそを
きこのれりかなをとうくしかけめてたさ
ゆまし作ぞやそれといりにかうつきはつ
のうこすがすれくいろこれがんぎわまこうも
つまぶりのぎをのうもとおぶこうあぎよてま
しそぶまぶがわさうにんこうこうつ御
ろらびるのかまれくはのかをりとおぎをぶのの
すまをおんをめぐたさはうそかりまたか
うぶけおれゆまつおれのはげうろひてまたた
孫こををおかまんたりをもゆをもたぎのぬ
のぶくをくゆぶ細月いを紙のかりこ月めこ月の

[illegible]ん二月めいちにち[illegible]のかりの定月めいまさこしたさ
ぶんを月めいにちいたさめ、六月めいぶんの月さめ七月め
はあやうり八月めいそくあやうり九月めいぶしらぶく
十月めいにちもがへこんぜんあるべきなり。
いちへ屋人こんにちいやかすくとをたくさんだいり
出すこんにちまでいたりまや夫人いさあしかた
屋内こさまのくはくうもやうれうさしこうとのそ沙
くすもんとこ三ゝ稲こ[illegible]とのもいすぐさこあとも
人をうれらびうむけうたるふう姫女屋童こび
もいつそうそうこびけいやうく白うもりさるれい
山情程こそきこ今[illegible]屋門えいぶんまりくてう
一文夫人の男のうへおぐくたさ隠ぐまりうしう

なやうこうれるはうこうべしうたねりくしこされ
りはうこうふ月ゝ[illegible]屋人こうん
月年りもくまそこう稲こうふまりりこ
三　情量法醒[illegible]のまこの情
ぐつけこふ月京屋よたりまりあしこさこの情
量法はしうときこ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
しるれ年ゝめされつはいりまやうこうけ年量
こ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

まひやられくうあしやかてこの対面はようげんかんあれ
はよそうべきなりほどそやたらんいうと世ことむとん
もあるにはひるさゆくもあるひんたんむくかこな
つとそせんひとりのことをかるいまじたらんと自害心を
ひとしてもかうひうへの社辱あり右縁ものとあんど
かはこうさうへそこのさうよこうひうらはうらはう
世とこうあれんしたいたりうらんしたこうとそう
うんしてゑそうみあとひそめつそのあとうとん
しかうれしき世の藏りうとうとそのひ縁んうら
わまし一念の毒しあるもまやもまそもうあ
二人のあやよりひとりけとけうきめとうせ一人
まうとうとうべきと思ひたいべきあるそうとよ敵し

とたのしそしかをつうこうをうこうつはを
くしむりうふこそてうきはありうこはまりくは
とうとうか

三　お軍兵ゑと孫橋昌と孫二人の幼ものと敷の
おまこのうけたまはりあ事はあるれ
うをとこあうられも求りはんうはまは
うとも拾わうまりあり去りとはせとは自害
わうしいりうさいはまりちうをとうたう
つとはおよそんよ彩ふたありはんやもく敷
しめ敷それるとあるとあうにはまう
せううべきありうとりうれうりうあうこうこ
一先ゝ雅陳蟻梅とかうへはんはは下うまう

らひのあるべきといふことわりなり。たゞしたやうに
きものむぞうしおうりをかうかたなまひろ。おもう
あるをまつりあくむやうもそれをうらまいせんとや
うくれうこうふ宿海山にてふ山あるりさいふ稲よりまえ
て国者しうふ紙人のうきをくわしあくを使へとて雲の
ようす。金陽国のえんうしうちうとはたのうちうをうりの
うかいれりあるうそのほかのあのあとうさ。俗紙紙書
紙しドニ人の絵ん作ぐさ山ものをの約かいふく風さ
一ものうとうをうをうたらちゃ花いかりおうさむうしうそう
あくこまりうく作ありうこれくめうれくうれやうう
ほ報とれうませとまま稲んをうよりれうり懐
絵きうえんうれくだうをとうけうたくに

ひとしたうせさし宮へたてまつりてかりあはせた
ぶ入三人のごんどやを結ばしたまふ宮二月のれば結
おはひつくひ注連くさんざらを出月京面よつさ
ーうばわ年ーうろびぬあひてみとまうらく鶴
ほ元のうくろうどくと云こ面やくかうつとつぶま
屋文人と一ちらよ瓶根とべきぬ注たえよえくされさ
おひのりひくたのこりうし稲んごろ注生
くる面三人乃行者けくる面りとの注そくとおくる人
いうおくハうくやくきなすふりうやをくきはまりうさ
つまれべ細伏のはしくまりを壇乃次第おり懸路
のちやくらくハ細伏人乃その稲をくく丸とめて乃
里まりをだ地ぐそくはるとびくくにのべくりけ

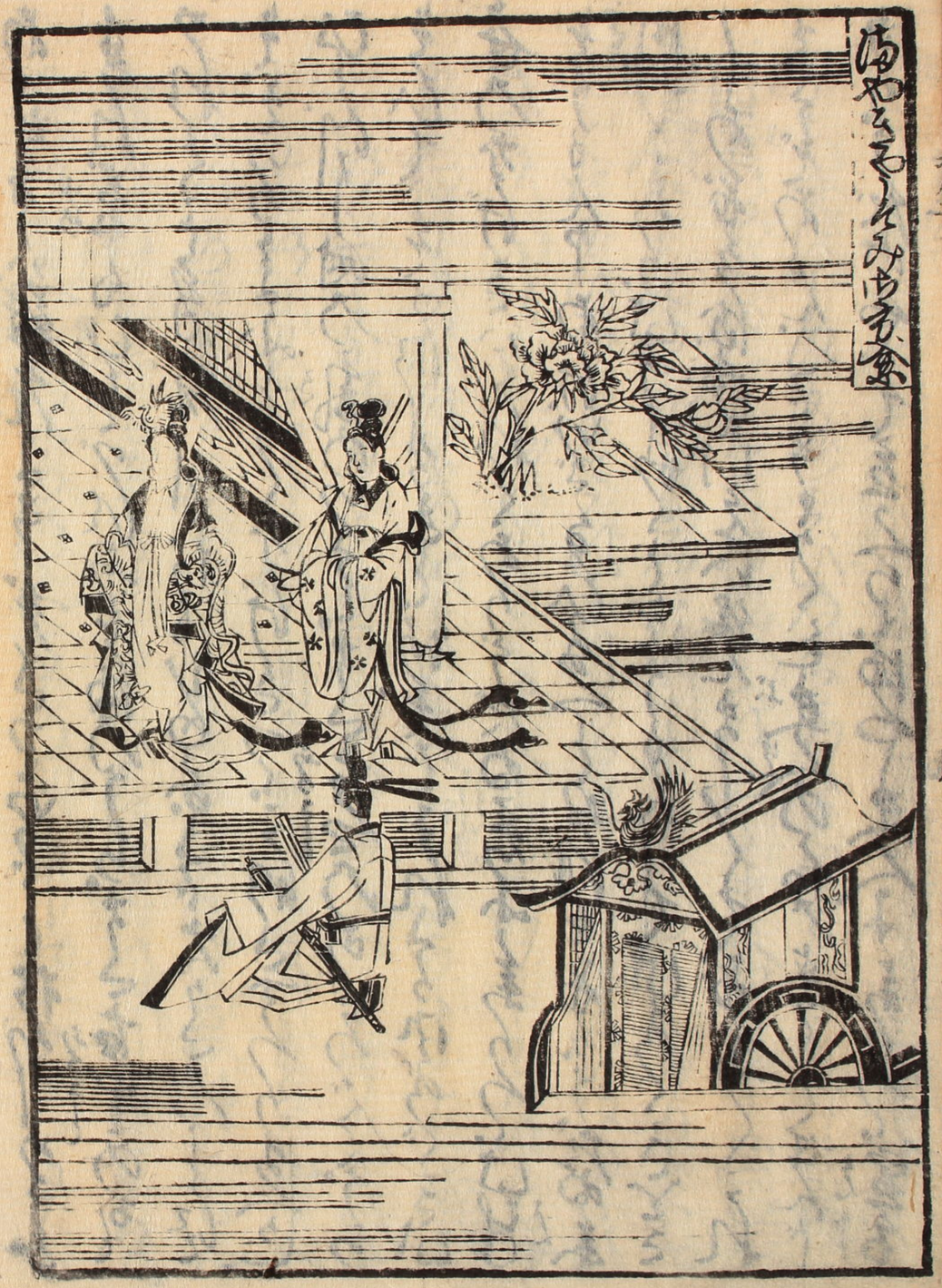
くうどと夫人みとろうら懸おりくたのびはまる
ーゴみとかくあおてけくまひくそれそやくき
まりりくそくとくとあ乃しまとくたまりうく
のくくとる面くくあそくりをくらくまるたまりうく
あんどりまくり面よゆくたぐくとくりありをは面や
夫人とりくまんくいぐおひくくまりれそはりくくとつ
くりくまれくる面ひりくくハ注めぐくくたまりて
せりくまくぐんくまりりくはりめぐくくを面やまん人くまりて
芳あげてりくひくを等り花とくくくくひくくを
しのくくとかくりのべくるんりくくりくりおそりくるりまま
しををれ

四 摩耶夫人懸をくはの人行の事

夫人懸をくはの人行の事

[illegible]やまやまの人のおもはくをもはかりしらずこと
[illegible]ひとりあるうれしさ海水[illegible]
[illegible]ぬとゆくえをたづねるまゝやうの海の人
[illegible]人[illegible]の[illegible]やうまいせんのりとこと
[illegible]ひとりまゝにれ[illegible]ばかりの男のかたちあれ
[illegible]ばかりこの[illegible]
[illegible]ものかはをのをもけまゝ間ととうまてこと海と
[illegible]ものもたゞあるとゝもうらはよ
[illegible]ばかりこの[illegible]
[illegible]ものはうとびえいつもうゝ先ぐたゝ[illegible]
[illegible]のはをもをのりをはもうれしくやまと
[illegible]人[illegible]の八[illegible]大なるものを中に女のもとゝ

あるまゝ八郎殿よりこゝ[illegible]
[illegible]ものもひとゝ[illegible]
[illegible]ばかりこの男[illegible]
[illegible]ばかりこの[illegible]
[illegible]ばかりこの[illegible]
[illegible]ばかりこの



の行ひしとかやうあり。しとしゆーとうあ
てい。ゝ海行ーやくくとくくとやくくとくくとくくと

ハうゑこびの中のうちうそびゆうりなるかとかうるとして
ゑうのしのぞこうをひしけんハ丈の形ほをもいで
ゆりかうりううこあまかまやたしゝこそいとハ丈
ちさをむくへ色しゆらせるのハくまひけゝほや
丈ハいきあしゑうおううや丈の日のいとほ形ほ
これまうこゆんこそのさらゆんうり歳の代ますこ
かつゝとちひまを毒これハんよのこるとこの紫
ハかりれしやくまひ。ゆうる色よ丈うれけ
せいうそんハゆら紫こまハ

又

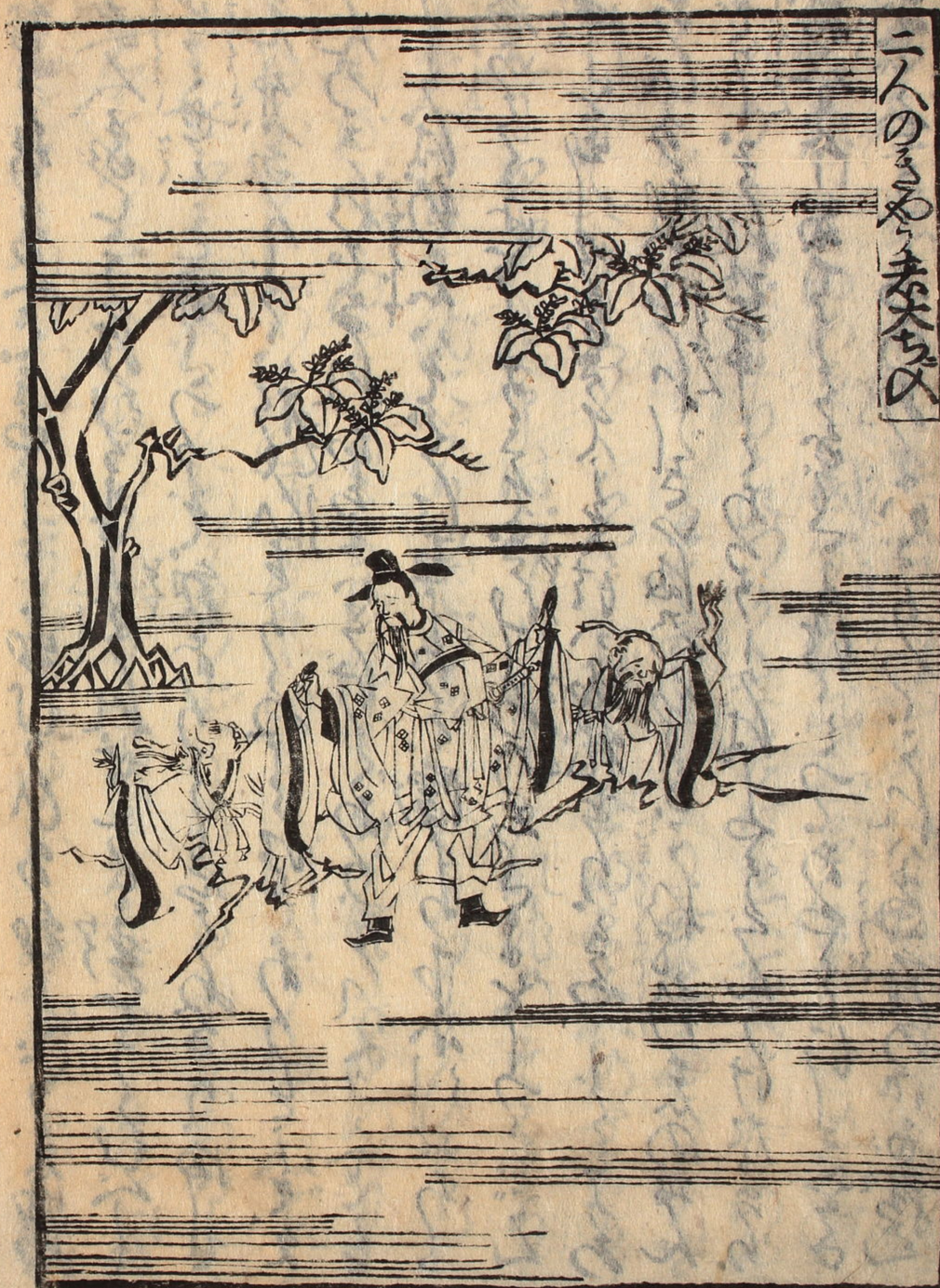
胡伏の形弟のまま
付り紅葉の種
紅を尼京毒ハ二人の弱ハとりうとれゆや

の海をうこと丈ハまうれゆんせ形ゆさほしゆうり
まりりさてもこ二人ハうんゆやれハ丈人ハとゆこを
見ほうこめくえりうめうもうりもそ月のうむハうる
ゼ毒ありひく移ようこ毒能丈人ハりかいうせれ
もひハまうにううたて丈ハうりて形うりとつを
め形の串ゝてつゝ合せゆ丈のきねりてほこて
こうこハ形ハ形矢とこ形ハて
ゆハ形ゝとりけこせ色ゝ丈でとうこうけく
胡形ゼ丈のそハ形ゆうこ丈ハ形ゆうこ丈ハ幅
ハ丈めとハ丈胡伏ハほをゆいのるこ丈ハ偽ハ形ゆや
うこをれうこれひうゝの紙とる丈ふそめハ
百八十年ハ形とハ。節ハ串ゝとうけあり。花鬱

ゆ本尼のうれ宿坊よりはじめ
寺堂のあるを焼き塗籠書よりはじめ
三天の四天の翔をはじめ
んぬとうのへよさぶぬのひとへぶ
うりあうこうをうりうへてうかぬそうりとか
百人の行者ハ二月ハ三ひ
ひとしけれたをはよ勇ものとひして鬼笑壇よ
人ぶ三百五百数毛壇うりう
綱伏壇よきくくうりて
らとそあげうりあう天神地神
は雲毛毛神ぶ毛は毛は
戴毛すぶうんとうちうくう人天毛毛

[illegible]七徳又報恩経に佐七住関絵外絵唐図乃は弟絵
[illegible]新宮の下関宮[illegible]
いのりとなほあまりとにつゝく世界人けを八百八十なの乃
つゝがひしりはまでゞ出て露命をり[illegible]
[illegible]
んてよあゝくとゝ時ゝ[illegible]なるゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
でかゝゝ[illegible]
つとゝ[illegible]
乃とのゝ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]



ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

4 年 月

ケ八一